

尻(名)

腸胃の瓦斯の尻に發する臭き息。

エミ發音する詞は^ゐの部にあり。すなはち家の略のへ。上の略のへ。方向を示す後詞のへの類。

部(名)

群の約音めなるを轉じてべといふ。①一部屬。②組。③群集。……下部 童部などは下

男童子の複數なりしが今は唯一人にてても云ふ詞と爲れり。○物の部「語部」

兵(名)

「一」武器。「二」戰士。○兵士。「三」軍勢。

平(名)

●軍隊。「四」合戰。

塀(名)

土または板にて造りたる垣。○土塀「板塀」

幣(名)

「一」神に奉る絹または布。●幣帛。「二」紙を切りて串に挟み又は神、注連などに附けて神事に用ふるもの。●して。●御幣。

弊(名)

くせ。●惡習。

嬖(名)

嬖臣又は嬖妾の意。●愛しもの。

聘(名)

禮を以て呼び迎ふる事。△(動)―聘す。

米(名)

「一」め。「二」亞米利加。

(助動)

「一」べきの音便。○源氏「ばしたなくも

へ

輕唇音にして子音の一つ。濁音にてはべと爲り重濁音にてはべと爲る時は重唇音に變ず。清音のへが詞の中音また末音に來る時は多く音便にゐと發音するを常とす。又う音の前に來る時はひようと發音する事多し。

舳(名)

船の前の部分。○「船の舳」

戸(名)

家。

竈(名)

かまど。

瓮(名)

上古用ひたる土製の瓶。○「いづべ」「いはひべ」

邊(名)

「一」はざり。●「たはら。○蜻蛉」「法正寺のへにして」「海邊」「野邊」「二」海の陸に近き方。……沖の反對。○萬葉「海原のへにも沖にも」

方(名)

其方向。○「上方」「後方」「枕方」

綜(名)

「一」糸を綜る事。「二」糸を掛け之をこなたかなたに經めぐらして機を織る道具。綜臺

とも綜足とも云ふ。

あんべいかな「雅」〔二〕の音便。○「おれもゆくべい」(俗)

へい

平易(名) やすかなる事。●簡易。

へい

兵威(名) 兵の威光。

へい

兵員(名) 兵士に同じ。

へい

兵馬(名) 〔一〕武器と軍馬と。〔二〕いくさ。

へい

平變樂(名) 雅樂の曲名。

へい

平人(名) たゞの人。●高貴ならぬ人。

へい

平方(名) 平面の方形。

へい

兵法(名) 合戦の方法。●軍學。

へい

平凡(名) すぐれたる點の無き事。

へい

(名) 關東の田舎には行くべいかへ

いの如くべいの附く詞が多くて耳立つ故、
れを代表して云ふ。すなはち田舎詞の意。

へい

併呑(名) あはせのむ事。●一つに我手に入
るゝ事。△(動)―併吞す。

へい

平地(名) 平坦なる土地。

へい

兵仗(名) 武器。

へい

閉場(名) 会場を閉鎖する事。△(動)―
閉場す。

へい

塀重門。塀中門(名) 武家の邸宅に表門

と母屋との間に在る門。●中門。
塀重門(名) へいちゅうもん略。

へい

兵力(名) 兵氣。●兵勢。

へい

兵略(名) 軍略。

へい

平穩(名) 平和に同じ。

へい

平和(名) 穩便。●穩和。●安穩。

へい

平話(名) たゞ普通の談話。

へい

陛下(名) 天皇を申し奉る尊稱。

へい

弊家(名) 私の家。……手紙の詞。

へい

兵家(名) 軍士。●武士。

へい

弊害(名) 惡弊。

へい

米艦(名) 亞米利加の軍艦。

へい

兵軍(名) 武器と甲冑と。

へい

兵學(名) 兵事の學問。●軍學。

へい

舳板(名) 船の舳先の畧。

へい

平太(名) 能面の名。源氏の武

へい

士などに用ふるもの。△(圖)

へい

兵隊(名) 隊伍を爲したる兵。

へい

平坦(名) 平かなる事。●高

へい

低なき事。
兵端(名) 戰の糸目。●軍の始。



へいだん

餅饅(名)

中古の菓子の名。餅の中に鵝鴨な

ごの子および雑菜などを入れ。煮合はせて
四角に切りたるもの。

へいれつ

併列(名)

ならぶ事。

へいそ

平素(名)

平生。●不斷。●平日。

へいそつ

(名)

兵士。●兵隊。

へいそく

幣束(名)

幣。●ぬき。

へいそく

閉塞(名)

さぢふさがる事。△(動)―閉塞す。

へいそく

屏息(名)

息を殺す事。△(動)―屏息す。

へいねん

平年(名)

閏の無き年。

へいねん

米年(名)

八十八歳。……米の字を解剖すれ

ば八十八の三字を爲る故に云ふ。

へいなんふり

米納(名)

租税として米を上納する事。

へいくわ

兵火(名)

軍より起る火事。●兵燹。

へいぐわ

平臥(名)

ひたりと臥す事。……おもに病氣

にて。

へいぐん

平軍(名)

平家の軍勢。

へいまん

屏慢(名)

昔し禁中などにて用ひられたる幕

の種類。幄舎あくしやの上部に水にて桁を作り之に

引き廻らしたる短き幕。

へいけ

平家(名)

〔一〕葛原親王より出でたる姓。●平

へいげい

睥睨(名)

にらむ事。△(動)―睥睨す。

へいけがに

平家蟹(名)

西國の海に住む蟹の名。鬼の

顔の如き形の甲を持つもの。◎西海に沈み

し平家一門の怨靈が化して爲りたると言ひ

傳ふ。

へいけん

平絹(名)

文あやの無き絹。今の羽二重の類。

ひらぎめに同じ。

へいげん

平原(名)

平坦なる野原。

へいけびは

平家琵琶(名)

平家物語を語る時に弾く琵

琶。●琵琶法師の持つ琵琶。

へいふつ

米佛(名)

亞米利加と佛蘭西と。

へいぶん

平分(名)

平等に分配する事。

へいふう

弊風(名)

惡風。●惡習。

へいふう

屏風(名)

びやうぶに同じ。

へいふう

平服(名)

不斷着。……禮服官服の類ならぬ

を云ふ。

へいふく

平伏(名)

ひれふす事。△(動)―平伏す。

へいこ

聲鼓(名)

攻め大鼓。

へいご

平語(名)

平家物語の略。

くわい 平語(名) たゞ普通の言語。……詩歌または美文に對して云ふ。

くわい 閉口(名) 「一」口を閉ちて物言はぬ事。「二」一言も無く降服に歸したる事。△(動)―閉口す。

くわい 閉校(名) 「一」其學期の終に學校を閉づる事。「二」廢校。

くわい 並行(名) ならびゆく事。●二つの事物が同じ距離にて進む事。△(動)―並行す。

くわい 雙行線(名) 雙方同じ距離、同じ方向に引きたる線。……地圖の上に引きたる經度線の如きもの。

くわい 米國(名) 亞米利加。

くわい 米穀(名) 米。

くわい 兵役(名) 軍に出づる役目。

くわい 閉店(名) 店を閉鎖する事。●廢業する事。

くわい 平安(名) 「一」泰平。●安全。「二」平安京の略。すなはち山城の京都。

くわい 閉鎖(名) 門および學校商店會場の類を閉づる事。△(動)―閉鎖す。

くわい 兵器(名) 軍の道具。●武器。

くわい 兵氣(名) 兵士の氣風。●軍隊中の氣合。○「兵氣大に奮ふ」兵氣沮喪す

くわい 平氣(名) 「一」氣を平にし落ち附くる事。○「虛心平氣」(二)物事に騒ぎ狼狽せぬ事。△(形)―平氣なる。(副)―平氣に。

くわい 閉居(名) 家に閉ち籠り居る事。△(動)―閉居す。

くわい 平均(名) 多數の物を何れも同一の分量に爲し又は計算する事。●ならし。

くわい 平癒(名) 全快。●本復。△(動)―平癒す。

くわい 平民(名) 日本人民中の下級に位する人。

くわい 兵士(名) つはもの。●兵卒。

くわい 平氏(名) たひらうち。●平家に同じ。

くわい 平士(名) ひらさむらい。

くわい 瓶子(名) 酒瓶。●神酒德利。

くわい 平時(名) 泰平の時。●無事の日。

くわい 兵書(名) 兵學の書籍。

くわい 米商(名) 「一」米を賣買する商人。「二」亞米利加の商人。

くわい 嬖妾(名) 氣に入りの妾。●愛妾。

くわい 兵食(名) 「一」軍兵と兵糧と。「二」兵糧。

へいじつ

平日(名) 「一」並なみの日。……何か特別の日に

對して云ふ。「二」不斷。●平素。

へいしつ

弊室(名) 破れたる家。○謡曲「弊室に燈消

は」

へいしん

嬖臣(名) 氣に入りの臣。●愛臣。

へいじん

米人(名) 亞米利加人。

へいしや

弊社(名) 私の會社。……手紙の詞。

へいじゆ

米壽(名) 米年。

へいしつ

平出(名) 文書書法の詞。文中に天皇皇后の

如く敬禮すべき文字ある時其行に書き下さ

すに次の行に上げて書くを云ふ。

へいじゅう

陪從(名) 中古雅樂寮に屬せし地下の樂人。

へいもん

閉門(名) 徳川時代の士人の判語。門を閉ち

て數十日間交通を遮斷せしめたるもの。……

青竹を門の扉に打ち附けたるは其最も重

きものにて之を青竹閉門と云ふ。

へいせい

兵制(名) 兵事上の制度。

へいせい

平生(名) 不斷。●平素。●平日。

へいせん

兵燹(名) 軍より起る火事。●兵火。

へいせん

米船(名) 亞米利加船。

べろ

(名) 舌の異名。(俗)

へろへろ

(副) へら／＼に同じ。

べろべろ

(名) 「一」舌もつれして物言ふ事。「二」英語

など外國語の發音を聞き馴れぬ人から言ふ

詞。○「べろべろを話す」

べろべろ

(副) 「一」舌の廻り兼ねる有様。……大醉な

ごの形容。「二」英語など外國語を發音する

形容。「又」べろべろに。●べろ／＼と。

べろべろ

(副) 舌を出し入れする有様。●舌の先にて

物を嘗むる有様。

へろへろや

(名) 弱き矢を嘲る詞。へら／＼して折れ

んとするの意。○保元「清盛などがへろへ

ろ矢」

へろり

(副) へろ／＼に同じ。(又)べろりと。

べろり

(副) 舌を出す有様。(又)べろりと。

へろり

(副) べろ／＼に同じ。(又)べろりと。……

「舌を出し入るゝと共に容易く吞み込む様

を形容して「べろりと食ふ」など云ふ。

へばし

綜簪(名) 機の具。手に持ちて綜の糸を廻はす

もの。

へに

輕粉(名) 白粉おしろいに紅べにを和し苦し女の頬に塗りたる

もの。今の桃色白粉、肉白粉の類。

べに 紅(名)

〔一〕女子化粧具の一つ。紅花より製して唇などに塗る紅色のもの。〔二〕其色。すなはちくれなぬ。

べにいろ

紅色(名) 紅の色。●くれなぬ。

べにばな

紅花(名) 草の名。葉は終に似て夏の初め黄ばみたる紅色の花さくもの。此花を取りて紅を製するなり。●異名は……くれなぬ。

●からあぬ ●未摘花。

べにだうし

紅唐紙(名) 紅色に染めたる唐紙。書籍の不審なる處などに裂いて貼るためのもの。

べにとき

紅漆(名) 紅を溶かして賣りあるく商人。●紅賣。(職人歌合)

べにちく

紅猪口(名) 紅皿に同じ。

べにりんご

紅林檎(名) 林檎の一種。花の殊に紅深きもの。

べにがひ

紅貝(名) 櫻貝の最も色よきもの。色貝とも云ふ。

べにから

(名) べんがらの轉。

べにだけ

紅茸(名) 初茸に似て笠紅に美しきもの。食用には爲らず。

べにそめ

紅染(名) 紅色にて染めたるもの。

べにつけゆび

紅附指(名) 紅差指に同じ。

べにくちば

紅朽葉(名) 染色の名。朽葉色の紅を帯びたるもの。

べにふで

紅筆(名) 女の紅を唇に附くる時用ふる筆。

べにあ

紅繪(名) 紅の彩色を多く用ひて摺りたる浮世繪。享保年間に流行せしもの。

べにざら

紅皿(名) 紅をほきたる皿。

べにさしゆび

紅差指(名) 手の小指の次の指。●差指。④女の紅を唇に附くる時多く此指を用ふる故の名。

べにしほり

紅絞(名) 染色の名。紅色の絞染。

べにしやうが

紅生姜(名) 梅酸に漬けて赤くしたる生姜餅などに入る料。

べにひわ

紅鴉(名) 鴉の一種。紅色のもの。

べにすげ

紅菅(名) 萱草の一種にて葉小さく花紅なる物。

べにすずめ

紅雀(名) 雀の一種。形小さく色紅なるもの。

べへ

(感) 興に乗じて笑ふ聲。●趣味を含めて笑ふ聲。

べへ

(名) 衣服を小兒の言ふ詞。

へへやかに

(副) 年月の經過する有様。●荏苒。

へど 反吐(名) 嘔吐物。

へどつく (自動四段) 嘔吐する。(雅)

べたう 別當(名) べったうの略。

べち 別に(副) べつに同じ。○枕「べちに居し家

の公達」

べちの 別の(形) べつのに同じ。○宇治「べちの事に

候はす」

べちなふ 別納(名) 寝殿より離して別棟に建てたる

家。○榮花「一の宮は別納におはします」

へちま 絲瓜(名) 瓜の種類。花は黄にて胡瓜に似。實

は長くて杵または挿木に似たり。

べちぎ 別儀(名) べつぎに同じ。

へり 縁(名) 「一」物のふち。●物の端。「二」疊、薄縁な

ごの兩端に附けたる布。

へりぬり 縁塗(名) 縁を附け漆にて塗りたる烏帽子。

即ち。立烏帽子、風折烏帽子の類。武家にて

は引立烏帽子を云ふ。○謡曲「縁塗さつて

引きがづき」

へりくたる (自動四段) 謙遜する。

へめし 戸主(名) こしめの古名。●一家の主人。

へる 減(自動四段) 少なくなる。●げんする。

へるもんど (名) 伊太利語より来る。○西洋酒の名。甘

味に苦味を帯びたるもの。

へな 綜緒(名) 鷹狩の時鷹をそらさぬやうに其足に結

び附くる紐。あしなとも云ふ。

へなつつ 綜緒筒(名) 綜緒を巻きつくるもの。

(名) 犬の手。狆。

べかいぬ (助動) べくありの約音。○見るべかりけり」

べかり (助動ラ變) べくあるめりの約および轉。

べかんめり (助動ラ變) べかんめりの略。

へがす (他動四段) 剥がすの轉。

へた 蒂(名) 瓜、茄子の類の萼。

へた 下手(名) 拙き事。……上手の反對。

へた (名) 「一」邊り。||端に同じ。「二」海邊。○後撰

「何せんにへたのみるめを思ひけん沖つ玉

藻をむづく身にし」

へたい 綜塗(名) 綜の「二」を見よ。

べたべた (副) 餅などの濡れて粘る有様。(又)べたへ

たに。

へたち (名) へだての轉。●しきり。(萬葉)

へたる (自動四段) よわる。●失敗する。

へたたり 隔(名) 距離。●隔絶。

へだたる

隔(自動四段)

遠ざかる。●

へだつ

隔(自動四段)

へだいるの古格。◎遠ざかる。

へたつ

隔(他動下二段)

物を以て間に挟む。●遠ざく。

る。●逃る。●しきりをする。

へだて

隔(名)

間のしきり。

へだてがほ

隔顔(名)

隔意がましき顔附。○源氏「は

づかしけれど何かは隔顔にもあらん」

へだてごころ

隔心(名)

隔意。●かくしん。

へだし

(名)

へだらの轉。◎へだて。●中のしきり。

○萬葉東歌「床のへだし」

へそ

綜麻(名)

綜たる糸を丸く巻きたる玉。

へそ

臍(名)

「一」腹の真中の凹みたるところ。●ほそ。

「二」すべて之に似たる形のもの。「三」麝香

獸の臍より取るを以て麝香の數をかぞふる

に云ふ詞。○「麝香一へそ二へそ」

へそのな

臍緒(名)

胎兒の臍より胞に通じたる管。

べつ

別(名)

「一」わかれ。●離別。「二」ほか。●別途。

べつ

鼈(名)

海龜。

へつひ

土突(名)

かまど。

べつば

別派(名)

別の流派。

べつばい

別盃(名)

旅立つ別れの盃。●離盃。

べつに

別に(副)

ほかに。●其他に。

べつほん

別本(名)

他の同じ書籍。●一本。●異本。

へつべ

邊つ方(名)

邊の方。●海の陸に近き方。○萬

葉「沖へには鷗よばひ邊つべにはあちむら

さわき」

べつたう

別當(名)

本官ありて更に其職に當るの意。

◎「一」或る職の長官。……朝廷にては藏人

所別當、檢非違使別當、院藏別當、大歌所別

當、淳和并學兩院別當などあり。鎌倉幕府

にては政所別當、侍所別當あり。「二」社寺

の長官。……藥師寺別當、鶴岡別當の類。

「三」神主。「四」馬丁。◎厩別當より出でた

る詞なりとも云ひ。又は馬丁の音より轉せ

しものとも云ふ。

べつてきう

別條(名)

別事。●外の事。●異狀。

へつる

(他動四段)

減らし取る。

べつかく

別格(名)

格外。●別段。●特別。

べつかくんし

や

別格官社(名) 朝廷より祭らせ給ふ

神社にて官幣國幣の外にあるもの。……

國家に勳功ある臣下の祭られたる社にて漢

川神社建勳神社の類。

べつだん

別段(名) 格別。●特別。

べつさう

別荘(名) 遊などに行くための別宅。なりじころ。●下屋敷。

べつひ

土突(名) 竈。へつひに同じ。

べつなみ

邊つ波(名) へなみに同じ。

べつらひ

詔(名) 詔説。●こび。●おもれり。

べつらふ

詔(自動四段) 意を托けて他人の機嫌を取る。●媚ぶる。●阿る。●追従する。●お世辞を言ふ。●お尋の塵を掃ふ。●おべつかを言ふ。

べつ

別の(名) ほかの。●他の。

べつなふ

別納(名) べちなふに同じ。

へつ

邊附(自動四段) 沖を行かすして邊の方に附くの意。○萬葉「邊つきて漕ぎける舟」

へつくり

綜作(名) 綜を廻らすを營業とする工女。○好忠集「へつくりが垣根の雪な」

へつくり

(名) 贅造の意。●料理人。

べつ

別火(名) 神事に携はる人など他の穢と混するを忌みて煮焼の火を別にする事。

べけ

別家(名) 分家。……本家に對して云ふ。

べつふう

別封(名) 封書に添へたる他の封書。

べつふく

別腹(名) 「一」異腹。「二」妾服。

べつこ

別戸(名) 家族と別れ一戸を爲して住む事。

べつこん

別懇(名) 別段の懇意。●入魂。

べつかふ

鼈甲(名) 海龜の甲。●玳瑁。

べつて

別手(名) 「一」別の軍隊。「二」別口。

べつき

別記(名) 本記に添へたる別の記録。●附録。

べつぎ

別儀(名) 別事。●他事。●異儀。

べつぎ

別居(名) 家族と別れ住む事。

べつみ

別名(名) 別の名。●又の名。●一名。

べつし

別紙(名) 本書に添へたる別の紙面。

べつじ

別事(名) 別條。●異狀。●外の事。

べつして

別して(副) 取りわけて。

べつしふ

別集(名) 詩歌文集などの本集ならぬもの

べつしみ

寢見(名) 龍面の名。天狗、鬼などに用ふるもの。大べつしみ小べつしみ長靈べつしみなどの種類あり。

べつび

別火(名) べつくわに同じ。

べつびん

別品(名) 「一」特別の良品。「二」美人。

へつもは

邊津藻葉(名) 沖ならず邊の方に生じたる海草を云ふ。……沖津藻葉の對。(祝詞式)

べっせき

別席(名) 他の場所。●特別の場席。

へな

(名) 地の轉。◎土の名。荒壁なき塗る料の粘土。

へなる

(自動四段) 隔たるの古言。○萬葉「山川のへなりてあれば」

へなたり

甲香(名) 貝の名。かいじうの一名。

へなみ

邊波(名) 陸に近き海の波。……沖波の反對。

へら

篋(名) 竹、木、象牙の類を薄く細長く先を尖らし

へら

辦(名) 摯の耳。

へら

(名) 薄くへら／＼するもの。……故に紙幣の異名。

へらぼう

(名) 馬鹿。●たはけ。……轉じては大それた。

へらへら

(副) ひら／＼に同じ。薄さのいひらめく有様。●又薄さのいしなふ有様。(又)ー

へらへら

(副) 辨舌よくしゃべる有様。(又)ーへらへら。

へらへら

(副) 「一」へら／＼。「二」へら／＼。「三」へら／＼。(又)ーへら／＼。

へらへらをどり

(名) 現世見せ物などにてする踊の名

へらなり

(助動う變) へらはめりめるなど、元同語。

へらざる

篋(名) 嘴が篋の形を爲したる體。

へらす

減(他動四段) 少なくする。●げんする。

へらす

(自動) へらめへられさゝ活用して云ふ。もとは其氣力の減少せぬより出でたる詞。◎めげず臆せぬの意。●ひるみを見せぬの意。

へらすぐち

(名) ひるみを見せぬ口上。●責けぬ氣の

へん

變(名) 「一」移り變る事。●變化。「二」常々變る

事。●異變。

へん

返(名) 度。回。○「返」敷返」

へん

邊(名) 「一」はさり。●近邊。「二」ふち。●がは。

へん

篇。編(名) 「一」詩文の完き一つ。○「古詩三百篇」

へん

偏(名) 「二」書籍の一部分。○「前篇」「後篇」

へん

偏(名) 漢字の左の部分。……嶋、松、稻の字を山

へん

偏、ノ木偏と云ふの類。

へん

便(名) 「一」たより。●便利。「二」大小便。

へん

瓣(名) 「一」薄くびらくしたるもの。○「心臓の

へん

瓣」「二」花びら。●くわへん。

へん

辨(名) 昔し太政官に置かれたる官名。左大辨、

へん

左中辨、左少辨、右大辨、右中辨、右小辨の六

へん

級あれども通例辨さのみ呼ぶ。おの／＼分

へん

擔して八省の事務を管轄す。

へん

辨(名) 「一」わきまへ。●辨別。●差別。「二」も

へん

のいひ。●辨舌。

へん

(名) 英語より来る。◎西洋字を書く筆。金蘭、羽

へん

版位(名) 昔し禁中にて儀式ある時百官着席の

へん

列位を定むるための木札。○代始和珍、少

へん

納言かはりて版位に着く」

へんろ

偏路(名) 順禮。……轉じては乞食。

べんろん

辨論(名) 辨に論ずる事。△(動)―辨論す。

へんば

偏頗(名) 依怙負鼠。●不公平。

へんばい

反問(名) 陰陽師の行ふ神拜の一法。

へんばい

返盃(名) 差されたる盃を飲みて其人へ差し

べんばつ

返す事。

べんばつ

辮髮(名) 支那人の髪。●豚尾。

べんばつど

辮髮奴(名) 支那人。

へんばんらく

平蠻樂(名) へいばんらくに同じ。

べんばく

辨駁(名) 他の説を辨論駁撃する事。△(動)

へんに

變に(副) 不思議に。●いやに。●不愉快に。

へんにい

片(名) 英語より来る。◎英語の錢の名。シ

へんにふ

リンケの十二分の一。

へんにふ

編入(名) 既に組織せるものの中に入る

へんぼん

事。△(動)―編入す。

へんぼん

翩翩(副) ひらり／＼。……旗などの風に飄

へんばう

る有様。(又)―翩翩と。○「白旗數旒へんば

へんばう

んと吹き靡かせ」

へんばう

邊防(名) 邊境の兵備。●國防。

へんばう

辨妄(名) 他の説の妄りなるを辨駁する事。

へんぼう

返報(名)

「一」恩返し。「二」仇返し。

べんべつ

辨別(名)

わきまへ。●區別。△(動)―辨別す。

へんべん

返辨(名)

返却辨償。△(動)―返辨す。

へんへん

翻々(副)

ひら／＼。●ちら／＼。(又)―翻々こ。(形)―翻々たる。

へんへんぐさ

(名)

薺の異名。

へんご

邊土(名)

都より遠き土地。●邊鄙。

へんたふッ

返答(名)

こたへ。●返事。△(動)―返答す。

へんどう

變動(名)

うごきかはる事。△(動)―變動す。

べんたう

辨當(名)

他へ持參して食ふ飯。

べんぢく

(名)

べんの手に持つところ。

べんぢら

辨茶羅(名)

「一」辨舌。「二」詔の辨舌。

べんり

便利(名)

たより。●便宜。●好都合。

へんか

返歌(名)

贈られたる歌の返事によみてやる歌す。●かへした。

へんがい

變改(名)

かへあらたむる事。△(動)―變改す。

べんかい

辨解(名)

いひわけ。

べんがら

(名)

赤黒き色を染むるもの。◎もとは印度

へんかく

變革(名)

改革に同じ。

へんかく

變格(名)

「一」定格以外の事。●變則。「二」文法上の詞。普通の四段、二段、一通の活用

法に當てばまらぬ一格。

べんかく

勉學(名)

學問を勉強する事。△(動)―勉學す。

へんえう

邊要(名)

邊境にて要害の地。

へんたい

變體(名)

普通の形にかはりたる事。○「變體」

假名」

へんれい

返禮(名)

答禮。●報謝。●恩返し。

べんれい

勉勵(名)

つさめはげむ事。●勉強。

へんれき

遍歷(名)

處々へめぐる事。△(動)―遍歷す。

へんそく

變則(名)

定規の法則にはづるゝ事。●不規則。●別格。

へんつく

偏突(自動四段)

偏突の遊をする。

へんつき

偏突(名)

中古の文學上の遊戲の名。漢字の

偏を隠してツクリばかり見せ。何偏かを當

てさするもの。○源氏「基打ち偏突きなごし

へんねんたい

編年體(名) 歴史の一體。年月の順序によりて出来事を記す事。……六國史、大日本史の類。

へんねんし

編年史(名) 編年體の歴史。

べんなん

辨難(名) 他の説を辨論非難する事。△(動) 辨難す。

へんなふ

返納(名) 返し納むる事。……返上の少し輕き詞。△(動) 返納す。

へんく

變化(名) 「一」形有様の變る事。「二」文法上の詞。語尾の働きて變る事。●活用。

べんくわん

辨官(名) 大政官の官名。一辨に同じ。

へんくつ

偏風(名) かたくななる事。△(形) 偏風なる。(又) 偏風の(副) 偏風に。

へんぐ

變化(名) へんげに同じ。○源氏「佛菩薩のへんぐあし」

へんまんす

遍滿(自動サ變) あまれくみつる。○謠曲「王城近く遍滿して」

へんげ

變化(名) 「一」神佛の形を變へて假に人間となりたる事。「二」妖怪。

べんけいがに

辨慶蟹(名) 色の極めて赤き小蟹。

べんけいよみ

辨慶讀(名) 下の文句を上につけなごし

て讀み誤るを云ふ。◎或人「辨慶が長刀を持つて」といふ文を「辨慶がな……きなたを持つて」と句を切りて讀みたるより起りたる詞。

辨慶綺(名) 基盤の目の細かなる綺。

へんぶつ

偏物(名) 偏固人。冕服(名) 御即位の時天皇の召させらるる御衣

べんぶく

の。名。

色亦く

日月、

星辰、

昇龍、

降龍等

十二章

の模様

あり。

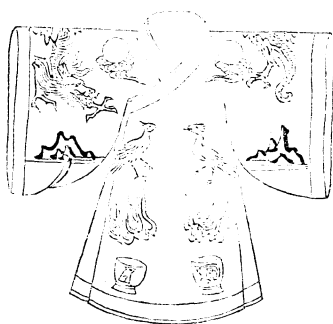
又袞龍の御衣さも。大袖さも。十二章の御衣さも。赤の御袍さも稱ふ。(圖)

偏固(名) 頑固。●偏風。

辨護(名) 他人の爲めに言ひ開きをなし保護す

へんご

へんご



る事。△(動)―辨護す。

べんごにん

辨護人(名) 裁判所に出で、辨護を爲す人。營業とする人。

へんか「う

變更(名) 變更に同じ。△(動)―變更す。

べんこう

辨口(名) 辨舌。

べんごし

辨護師(名) 辨護人に同じ。

べんてん

辨天(名) 辨財天の略。

べんでん

便殿(名) 御休息の場所。……おもに天皇なごに云ふ。

べんてんだう

辨天堂(名) 辨財天を祭れる宮殿。

へんさい

返済(名) 借りたるものを全く返す事。△(動)―返済す。

べんざいてん

辨財天(名) 天竺の女神の名。辨舌の才を守り智慧の福を與へ。又琵琶を弾じて音楽を奏する神。我國にては中古以來市村島姫命と混じて島の地に多く祭られたり。又美人の形容にも常に引き用ひらる。

べんざん

編纂(名) 材料を集めて書物に著作する事。

●編輯。△(動)―編纂す。

へんさん

偏衫(名) 袈裟の一種。左の肩より右の脇に懸くるもの。

べんざき

(名) べんの襦袢。

へんき

(名) 蘭語のヒキより来る。◎西洋形の船、家、橋などを塗るもの。●ちゃん。

べんぎ

便宜(名) たより。●便利。

へんぎ「う

邊境(名) 國境なる邊土の地。

べんき「う

勉強(名) 「一」物に精を出す事。「二」學問に精を出す事。△(動)―勉強す。

へんきぐ

返却(名) 借りたる物を返す事。△(動)―返却す。

べんめい

辨明(名) 辨じ明らかにする事。△(動)―辨明す。

へんし

變死(名) 通例ならぬ死様。●横死。

へんし

片時(名) いたさき。●暫時。

へんじ

返事(名) 答。

へんじ

變事(名) 異變の出來事。

べんし

辨士(名) 「一」辨者。「二」演説する人。

へんし

返書(名) 返事の書面。

べんじ

便所(名) 廁。

へんぜ「う

遍照(名) あまねくてらす事。○「光明遍照」(佛教)

へんじ「う

返上(名) 返却の敬語。●お返し申す事。△(動)―返上す。

へんし^{ヤシヨウ}

辨償(名) わきまへつぐなふ事。△(動)

―辨償す。

へんじ^{ヤシヨウ}うなんし

變成男子(句) 「一」佛法の功德に

よりて八歳の龍女が男子と生れ變りしを云ふ。……法華經提婆品に曰く「當時の衆會

皆、龍女が忽然の間に變じて男子と成り。

菩薩行を具し。即ち南方無垢世界に往き寶

蓮華に座して等正覺を成じ。充。普く十方一

切衆生のために妙法を演説するを見る」

「二」以上の意味よりして總べて功德により

女子の未來の世に男子に生れ變り成佛する

事。

へんしん

變心(名) 心がはり。

へんしん

變身(名) 神佛などの體を變へて人間と現は

る事。又其現はれたる人間の身。

へんしん

返信(名) 手紙又は電信の返事。

へんじん

偏人(名) 普通にはづれたる性質また行爲の

人。●偏屈人。

へんし^ヤ

編者(名) 編輯人。

べんし^ヤ

辨者(名) 辨舌のよき人。

へんし^{シヨウ}

扁舟(名) 小舟。

へんし^{シニ}ふり

編輯(名) 材料を集めて書物に作る事。

●編纂。△(動)―編輯す。

へんし^{シニ}ふり

偏執(名) 片意地。

へんし^{シニ}ふり

(副) いたさきも。●少しの間も。

へんび

反鼻(名) 昔し用ひたる雅樂の樂器。木にて作

りたる巴の如きものを左手に持ち。杖の如

き機を右手に持ちて打つ。(龍鳴抄。舞樂古

圖)

へんび

邊鄙(名) 片田舎。

べんび

便秘(名) 醫學上の詞。大便の滯る事。

へんびこころ

通鼻胡蝶(名) 雅樂の曲名。

べんせつ

辨舌(名) ものいひ。辨に同じ。

へんせん

變遷(名) うつりかはり。

へんず

變(自動サ變) かはる。●改まる。●變化する。

へんず

變(他動サ變) かふる。●改むる。●變化さす

る。

べんず

辨(自動サ變) さいのふ。●事済になる。

べんず

辨(他動サ變) 「一」辨別する。「二」さいのふる。

●済まする。「三」述べ立つる。

べんす

片(名) 英語ペンニーの複數より出てたる詞。

◎英國の錢の名。ペンニーに同じ。

へう

ヒヨウと發音する詞はひの部にあり。

べう

(副)

べくの音便。○「あるべうも思はれず」

へぐ

(他動四段)

剥ぐ。●やゝ薄く削り取る。

へぐひ

竈食(名)

其家の竈にて炊きたる物を食ふ事。

へくそかつら

○記「あは黄泉つへぐひしつ」

へくそかつら

屁臭葛(名)

蔓草の名。葉はが、芋の如く花は朝顔に似て白く小さきもの。夏咲く。臭氣甚し。●異名は……へくさづる。●やいさはな。

へくろし

可漆(名)

漆の上等なるもの。◎暹羅國の近傍罷牛といふ土地に産する故の名。

へくさづる

屁臭蔓(名)

へくそかつらの一名。

へや

部屋(名)

其人の事に住む一間。●室。

へやずみ

部屋住(名)

嫡子にしてまだ家督相續せぬもの。

へまろ

經勝(自動四段)

年月を経て勝りゆく。

へまさ

鰯(名)

鰯のへなを巻くもの。

へげ

變化(名)

へんげの略。○空穗「御ちたちもへげのもののやうになりまさり給ふ」

へけん

(助動)

へからんに同じ。

べけんや

(助動)

反語の詞。べからんやに同じ。

へふた

戸籍(名)

こせき。へぶみに同じ。

へぶみ

戸籍(名)

こせき。(古)

へこたる

(自動下二段)

勢力の衰ふる。

へこたれ

(名)

腰拔。●たわけ。●すこたん。

へこむ

(自動四段)

「一」くぼむ。●ひっこむ。「二」よわる。●しよげかへる。

へこみ

(名)

へこむ事。●へこみたる處。●くぼみ。

へあがる

經上(自動四段)

階級を経て進む。●年を経に進む。○徒然「猫のへあがりて」

へあし

綜足(名)

綜の「二」を見よ。

べざいてん

辨財天(名)

べんざいてんの略。

へさき

舳先(名)

船の前の部分。舳に同じ。

へき

癖(名)

くせ。

へき

碧(名)

みどり。

へぎ

(名)

「一」割ぐ事。「二」へぎ板。「三」へぎ板もて造りたる折敷。●角切盆。

へぎいた

(名)

薄く剥ぎ取りたる板。菓子折などに造る材料。

へきろん

僻論

ひがみたる論。●誤解の論。

へきち

僻地(名)

片田舎。

へきれき

霹靂(名)

雷電。

へきそん

僻村(名) 片田舎の村。

へきらく

碧落(名) そら。●虚空。

へきえき

僻易(名) 他の勢に壓倒されてへこむ事。△

へきざや

僻郷(名) 片田舎。

へきざや

僻境(名) 都より遠き土地。

へきいふ

僻邑(名) 片田舎。

へきし

壁書(名) 壁に貼り附け公衆に示す書類。●お

へきせつ

僻説(名) ひがみたる説。●誤解の説。

へきす

僻(自動サ變) かなよる。●偏す。

へゆく

経行(自動四段) 経過する。○夫木「かりにも逢

へみ

椶(名) 木の名。葉はてまりに似て木に節あり赤

へみ

蛇(名) へびの古言。

へみ

へき故に。○古今「佐保山の柞の紅葉ちり

へみのむらや

蛇室屋(名) 数十百の蛇を入れ置く家。

神代に大國主神の苦しめられ給ひしと云ふところ。(記)

へみのひれ

(名) 昔し身に仇なす蛇を追ひ掃ふための

護身具。(記)

べし

可(助動。形状言ク活) 「一」推量の詞。ならんらし

く見ゆるなどの意。○「雨降るべし」何がし

の作なるべし」二「命令また希望の詞。何

々せよの意。○「朝さく起くべし」御一覽下

さるべく候」

へしごち

壓口(名) 壓しへしたる口の意。○殊更につ

ぐみたる口。●不興氣なる口つき。○盛衰

「初よりへし口してねも笑はず」

べしげに

(副) うべしげの意。○うべしげに。●

尤らしく。○長明無名抄「べしげによめる

そこそ見わたれ」

へしふす

(他動下二段) 押し伏せる。○著聞「いさ

勝つに乗りてへしふせて」

へしこむ

(他動下二段) 押し込む。○著聞「其中にへ

しこめて」

へしあふ

(自動四段) 互に壓す。●揉み合ふ。○お

しあひへしあひ」

へしみ 瘰癧(名) べっしみに同じ。

へしもつ

(他動四段) 押し附けて持ち貯ふる。○散木「散る花を皆へしもちて行く秋の戀しき時のかたみさやせん」……此歌は押花にするの意。

へしすう

(他動下二段) 押しする。○著聞「長居を尻居にへしするたり」

へび

蛇(名) 爬行動物の名。身は繩紐の如く長くぬたくり全體に細き鱗を有するもの。●異名は

……へみ。●くちなは。●長虫。

へびいちご

蛇莓(名) 草の名。覆盆子に似て毒々しき實のなるもの。●くちなはいちご。

へびご

戸人(名) 家内の者。(古)(名) 放屁。◎著聞「へびりの判官代」

へひりむし

(名) 虫の名。玉虫に似て甲に光なく人に押へらるゝ時尻より臭氣を放つもの。

へひる

(自動四段) 放屁する。

へびがみ

蛇神(名) 魔術師のために使はるゝ蛇。……犬神の類。

へびたけ

蛇葺(名) 葺の名。初葺に似て笠の裏にキザなく有毒のもの。

へびつかひ

蛇遣(名) 蛇を弄びて見せ物にする人。

へびくち

蛇口(名) 紐の端の輪になりたるところ。

へす

減(他動四段) 少なくする。

へす

(他動四段) 壓しつくる。○「へし折る」

